



# R431物語 第1回

今回の主人公：椅子

(有限会社アールズシステム 出雲市国富町)

岩田英作

出雲方面から車を走らせて平田の町にさしかかるあたり、431号線のドライバーを出迎えてくれるのが今回主人公の椅子である。

そのあたりには珍しい洒落た洋風建築のショウウィンドウの中、ほかに飾りはいっさいなく、ただ椅子が一脚、だれかが座ってくれるのを待っているかのように、じっと通りをうかがっているのである。



ショウウィンドウには、あるときはデンマーク家具の代表的な椅子スパンニッシュチェア、あるときはイタリア、カッシーナ社の逸品レッドアンドブルーと、世界中の名だたる椅子が入れ替わり顔を見せる。431号線を走りながらその椅子を目にした瞬間、周囲の空気が色がさっと変わる。田舎のスーパーで、そこにははずもない映画スターに遭遇したみたいな感じだ。

椅子を収集・展示しているのは、建築会社アールズシステムの社長金築知夫さん。椅子が展示してある洋風建築物はもともとJAの事務所で、建って半世紀になる。金築社長が建築事務所として引き継いでかれこれ11年、JA時代に玄関だったところをショウウィンドウに改装し、さて、この広さにちょうどよい飾りものはないだろうかということで、椅子の展示を始めたそうである。

会社の玄関には、ん？なんとシャベルでつくった椅子ではないか。土をすくうスプーンの部分が座面になっている。土な

らぬ人をすくう(救う?)シャベル椅子、洒落っ気たっぷりである。会社でつくった飾り用の椅子で、実際に座ることもできる。が、痛い。すくわれるためには、痛みを伴うものなのである。

事務所の裏手の倉庫に案内していただくと、そこはまさに椅子の博覧会場だった。これまで展示された数々の椅子がずらりと勢揃い、中にはこれからの展示を待つ箱入り状態の椅子もある。「これ、座ってみてください」と言われたのが、遊び心満点のグローブ椅子。座り心地はともかく、座っているだけで童心にかえれそうな椅子だった。この椅子は云々、あの椅子は云々と、金築社長の口からは椅子の話が尽きることがない。

社長さんにとって椅子ってなんですか、とぶっきら棒に尋ねてみた。「椅子は、居り場所の最終形」、それが金築社長の答えである。自分ひとりが居ることのできる、自分のための場所。「だから、自分の好きな椅子を一つ持つといいですよ」

椅子に始まり、話は金築社長の本業である家づくりにも及んだ。社長さんは、テーブルでもカドが丸っこいのはダメで、当たれば切れそうなエッジの効いたのがお好みだそうだ。小さい子どものいる家庭には不向きと思いきや、そうじゃないと社長さん。「1回カドにあたれば痛いてわかる。そうすれば自分で気をつけるようになる」話はさらに今日流行りのバリアフリー住宅の話題となって、社長の次の一言に、思わずうなづいた。「バリアフリー住宅というのは、ひとにやさしいというより、ひとにゆるい」まことにエッジの効いた切れ味最高のコメントである。

出雲市国富町、431号線のとある交差点。次に飾られる椅子を楽しみにする人も多い。私が訪ねた翌日には、また新たな一脚がショウウィンドウに飾られていた。(いわた・えいさく/総合文化学科教員\*日本近代文学)



桧ヶ山(右)と亀割(左)(出雲市久美地区)

## のんびり雲 第4号 2010

巻頭エッセイ●複眼で見る 松本侑子 1

特集●山陰の農村 ほっこり出会いの旅

鳥取市福部町 ラッキョウ畑の巻 2

鳥取県北栄町 長芋畑の巻 6

鳥取県大山町 芝畑の巻 10

鳥取県境港市 白ネギ畑の巻 14

松江市八束町 薬用人参畑の巻 18

島根県奥出雲町 ジュンサイの池と悦ちゃん農園の巻 22

出雲市唐川町 お茶畑の巻 26

浜田市旭町都川 棚田の巻 30

山陰の米粉食品大試食会 34

商店探訪⑤今岡ガクブチ店 38

石見神楽面——柿田勝郎面工房を訪ねて—— 42

石見銀山天領太鼓の響き 46

松江の橋——今と昔をつなぐ—— 50

ノルマンディー小旅行——ルーツをもとめて—— 52

ジャジャンの楽しみ——ジャワの市場と屋台の食—— 56

言葉によるケア 60

留学生事情  
短大卒業生@セントラル・ワシントン大学 62

おはなしレストラン  
ライブラリーへようこそ 66

棚田便り——雲南市山王寺から—— 69

(短編小説) バイキング 73

(まんが) 夏のはじまり 77

街のおもしろ文化観察学入門⑤  
(米子編) 81

編集後記 86

R431物語①椅子 (裏表紙裏)